

② 過去にあった災害をもとにしたBCPを独自に策定

【徳島県 川内土地改良区】

○県が策定したBCP等を参考に、過去にあった災害をもとにしたBCPを独自に策定。
○BCP策定を契機に、具体的な災害時の対応を検討し、施設の管理等の見直しを実施。

地域概要

- 川内地区は、一級河川吉野川により形成された吉野川平野の最下流部に位置する低位地帯（標高は1.0~0.0m）。
- 管内の受益面積は、559.6haであり、排水機場7箇所、排水ポンプ11台、用排兼水路10km等の施設を管理。



位置図

(出典：国土地理院HP※一部加筆)

対策の背景

大規模地震への対応

- 徳島県では、甚大な被害が想定される南海トラフ巨大地震に対する農業版BCP及び土地改良区BCPを策定（平成25年）
- 川内土地改良区では、近年の豪雨による浸水被害が発生（平成23年9月）。
- 大規模地震によりもたらされる津波への準備が必要と実感。



通常時



H23豪雨時

豪雨時の浸水状況

(出典：川内土地改良区提供資料)

対策の内容・結果

【BCPの策定】

- 南海トラフの津波による災害（震度6以上、津波想定4m強）を想定し、早期の排水機場の運転再開等を目標としたBCPを策定。

【図上訓練】

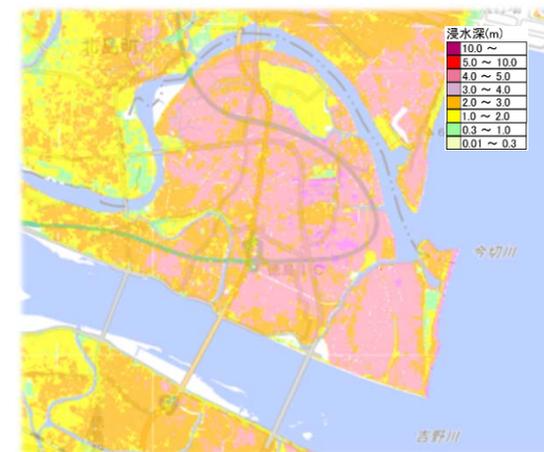
- BCPを実行性のあるものにする観点から、県、土地改良区、県土連が共同で、災害時の初動体制を構築。また、情報伝達の確認のため、ワークショップ形式の図上訓練も実施。



図上訓練の様子

(出典：徳島県農村振興課提供資料)

- BCPを作成したことで具体的な災害時の対応を考えるきっかけとなった。
⇒浸水被害リスクが低い事務所3階に重要書類や施設関係資料を保管。
⇒停電時対策、運転員の安全確保等の課題について検討し、排水機場の運転管理を見直し。
- 営農再開に向けた対応等、今後の課題をふまえたBCPの見直しを今後検討。



川内地区及び周辺のハザードマップ

(出典：徳島県HP)